

令和 2 年度 中学入試

[前期 A・E 入試]

国語科 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を含めて 16 ページあります。

試験中に、印刷が見づらかったり、ページが乱れたり抜け落ちていることに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離してはいけません。

[前期 A・E 入試] 受験番号 _____

金蘭千里中学校

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。問題に字数制限のあるものは、すべて句読点等も一字とする。

なぜ、『アンネの日記』が「世界を変えた」のかと疑問の方もいらつしやることでしょう。中東問題の行方ゆくえに大きな影響えいきやう力ちからを持っているから、というのが、私の答えです。

一九四八年五月、アラブ人が多数居住する（注1）パレスチナの地に、（注2）ユダヤ人国家であるイスラエルが建国されました。国連が、ユダヤ人たちの「自分たちの国家を建設したい」という a ヨウボウヨウボウを受け入れて、パレスチナを「ユダヤ人の国」と「アラブ人の国」に分割する案を採択さくたくしたのにもとづくものでした。ここから中東問題が始まります。

イスラエル建国に反対する周辺のアラブ諸国との度々たびたびの戦争を経て、イスラエルは、国連が採択した「ユダヤ人の国」の範囲はんいを超え、パレスチナ全域を占領せんりやうしました。これにアラブ諸国が反発し、中東問題は、こじれてこじれています。しかし、アラブ諸国以外の国際社会は、あまりイスラエルに対して強い態度をとろうとしません。ユダヤ人が、第二次世界大戦中、（注3）ナチスドイツによって六〇〇万人もの犠牲者ぎせいしやを出したことを知っているからです。

その象徴しやうちゆうが、アンネ・フランクであり、彼女が残した『アンネの日記』です。『アンネの日記』を読んだ人たちは、ユダヤ人であることが理由で未来を絶たれた少女アンネの運命うんめいに涙なみだします。『アンネの日記』を読んでもしまうと、イスラエルという国家が、いかに①国連決議こくれんけつぎに反した行動をとっても、強い態度に出にくくなってしまふのです。イスラエルが、いまも継続し、中東に確固たる地歩を築いているのは、『アンネの日記』という存在があるからだ、というのが私の見方です。

アンネ・フランクは、一九二九年六月一二日、ドイツ・フランクフルトの裕福なドイツ系ユダヤ人家庭で、父オットー、母エーデイトの次女として生まれます。アンネには、三歳年上さんさいねんじやうの姉マルゴがいました。

一九三三年一月、ナチス率いるヒットラーが首相しゆしやうに就任。ユダヤ人に対する弾圧だんあつが激しくなったことから、一家は迫害へくがいを逃れのが、オランダのアムステルダムに移住します。父親のオットー・フランクは、フランクフルトで銀行を経営していましたが、これを b ダンネンダンネン。アムステルダムにジャムの材料となるペクチンの製造会社を設立しました。

ところが、オランダも安住の地にはなりません。一九四〇年五月、ドイツはオランダを攻撃こうげき。占領してしまうのです。オランダの女王と政府の閣僚かくりやうはイギリスに（注4）亡命めいめいしました。今度はオランダ国内でもユダヤ人への弾圧が開始されます。一九四二年になると、オ

ランダ国内でもユダヤ人たちに次々に召喚状が届き始めます。呼び出しに応じて出頭すると、そのまま強制収容所に送り込まれ、二度と出て来られませんでした。

この年の七月、アンネの姉のマルゴーに召喚状が届いたことをきっかけに、アンネ・フランク一家は、逃亡を決意。父親が経営していたペクチン製造会社の事務所の入っているビル裏側の三階と四階のフロアーを隠れ家にして、生活するようになります。

事務所と隠れ家の間のcヒミツの通路は書棚で隠されました。事務所で働く事務員のミープ・ヒースらが一家を匿い、食料品の買い出しなどで支援してくれました。事務所で働く職員の中には、このことを知らない人たちもいて、この人たちに気づかれぬように暮らす生活が始まったのです。アンネたちが隠れ家に入った一週間後、知人のファン・ペルス家の三人が加わり、さらに四ヶ月後、知人で歯科医のフリッツ・プフェラーが加わりました。dソウゼイ八人による隠れ家生活が始まったのです。

アンネは、それより前の一九四二年六月一二日、十三歳の誕生日に両親からプレゼントされた日記帳に、オランダ語で日記をつけ始めます。隠れ家生活になっても、日記をつけるeシユウカンは続きました。

一九四四年三月、オランダのロンドン亡命政府の文部大臣が、オランダ向けのラジオ放送で、戦争が終わったら、戦争中の日記や手紙を集大成して出版すべきだと呼びかけます。これを受けてアンネは、それまでつけていた日記を元に、将来出版されることを前提にした、推敲を重ねた日記を書き始めます。将来出版されるときには、『隠れ家』という題名にすることも決めています。その後、実際に、この題名で出版されました。『アンネの日記』の原題は『隠れ家』。この日記には、原本にあたるものと、出版を意識した版の二種類が存在するのです。

しかし、一九四四年八月四日、何者かによる密告で駆けつけたドイツ親衛隊とオランダ保安警察によって一家は逮捕され、強制収容所に送られました。十三歳から十五歳までの間に書き綴られた日記は、ここで中断させられました。一家が逮捕・連行された後、一家を匿っていたミープ・ヒースが、アンネの日記帳を発見。こっそり隠しておいたことから、私たちは、この日記を読むことができるのです。

『アンネの日記』を小学生の私が初めて読んだとき、なぜユダヤ人が差別されるのだろうと疑問に思いました。そう考える人は、日本には多いのではないのでしょうか。日本に住んでいるユダヤ人は少数ですから、ユダヤ人差別という感覚がわかりませんね。

そもそもは、(注5)『新約聖書』にさかのぼります。『新約聖書』を構成している四つの福音書のひとつ「マタイによる福音書」の中に、次のようなエピソードが出ているからです。

ユダヤ教の改革運動をしたために、睨まれて死刑判決が下された(注6)イエス。彼が十字架にかけられることになると、当時ローマ帝国

から派遣はいけんされていた総督そうとくのピラトが、押おしかけたユダヤの人々に対して、イエスを十字架にかける必要があるのか、尋ねます。ピラトは、本音ではイエスを死刑にしたいくなかったからです。すると、人々は口々に、「イエスを十字架につける」と叫さけびます。「その血の責任は、我々と子孫にある」と。

つまり、イエスを死刑にしたために、たとえ報むくいが子孫に及およんでも構かまわない、と言ったというのです。この一節があるため、ヨーロッパのキリスト教徒の中には、イエスを殺害した人々の子孫は、報復を受けて当然だと考える人たちが出てきます。

この結果、ヨーロッパに渡わたってきたユダヤ人に対するいわれなき差別が行われます。ユダヤ人たちは、就職にも苦勞くろうします。中世のヨーロッパでは、金貸いしが卑いやしい職業だと差別されていました。この差別された職業にしか就つくことができないユダヤ人たちがいたのです。

やつと就けた仕事となれば、一生懸命働いっしょうけんめいきます。差別されている者同士のネットワークも発達します。この結果、金融業で成功して大金持ちになるユダヤ人たちが生まれます。こうなると、貧しいキリスト教徒たちから、ますます嫌きらわれるという構造が生まれます。

また、異郷の地に渡ったユダヤ人たちは、自らの信仰しんこうを捨てません。キリスト教徒社会にあっても、ユダヤ教徒同士が集まってユダヤ教の行事を守り続けました。これが、キリスト教徒からすれば、ユダヤ人がこっそり集まっているように見え、ここから、ユダヤ人は陰謀いんぼうをめぐらせているのではないかという疑心暗鬼ぎしんあんきが生まれます。いわゆる「ユダヤ人陰謀論」が誕生するのです。

第一次世界大戦に敗北して、多額の賠償金ばいしょうきんを課せられたドイツの人々は、生活に苦しんでいました。こういうときには、「敵」を作り出し、「あなたの生活が苦しいのは、敵の陰謀なのだ」と主張することで、政治家は支持を広げることができます。それを実行したのが、アドルフ・ヒットラーでした。ヒットラーは、自国の中に「敵」を作り出します。それがユダヤ人でした。ドイツは、アーリア人という優れた民族なのに、ユダヤ人によって貶おとしめられている。ユダヤ人を絶滅ぜつめつさせて、アーリア人国家に純化させることが必要だと訴うったえて、支配を確立したのです。

経済状態が悪化し、失業率が高まり、民衆の不満が高まると、「敵」を作り出して民衆の支持を得る。そんな政治勢力が生まれやすくなります。それは、ナチスドイツに限りません。

二〇〇九年八月、ユネスコ（国連教育科学文化機関）は、『アンネの日記』を、貴重な文書や資料の保存を目指す「世界の記憶遺産」に登録しました。ユネスコは、この本を、「世界で最も読まれた一〇冊のうちの一つ」と評価しています。

『アンネの日記』の存在によって、建国されたばかりのイスラエルは、世界の世論の祝福を受け、生き延びることができたのでしよう。ア

ンネが日記に「強いものは生き残り、けつして負けることはないのです」と書いたように。しかし、イスラエル政府によって（注7）壁で包囲されているパレスチナに住む人たちの中にも、日記をつけている少女がいるのではないのでしょうか。その少女は、イスラエル軍の行動に怯える自分たちのことを日記に語りかけているかも知れません。『アンネの日記』によって、中東世界は大きく変わりました。ところが、②それによって苦しむ子どもたちがいるのも、事実なのです。もしアンネが、それを知ったなら、彼女は、どんな日記を書いたのでしょうか。

（池上彰『世界を変えた10冊の本』より 一部改めたところがある）

（注1）パレスチナ：地中海東岸の地域。

（注2）ユダヤ人：占代においてはパレスチナの地で国家を形成し繁栄したが、紀元前一世紀にローマ帝国に征服され、イスラエル建国までの二千年近く、国を持たない民として世界中に広く離散した（ユダヤ人の定義には諸説ある）。

（注3）ナチスドイツ：ヒットラーを党首としたドイツの政党。反ユダヤ民族主義などをかかげて独裁政治を行った。

（注4）亡命：政治上・宗教上などの理由で、本国から外国へ逃れること。

（注5）新約聖書：キリスト教の教えを書いた本の一つ。イエスと弟子たちの言葉や行いが記されている。

（注6）イエス：キリスト教で救世主として信仰される人物。

（注7）壁：イスラエルによるパレスチナ全域の占領後も中東問題はこじれ続けていたが、一九九三年にパレスチナの一部をアラブ人の自治区とする合意が、ユダヤ人とアラブ人の間でなされた。しかし、イスラエルはその合意後も自治区への占領政策を続け、自治区内の町や村に壁を築くことで、そこで暮らすアラブ人の村や町を分断し、彼らの文化・教育・経済などを破壊している。

（一）波線部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。

a ヨウボウ b ダンネン c ヒミツ d ソウゼイ e シュウカン

(二) 傍線部①「国連決議に反した行動」について次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 「国連決議に反した行動」とあるが、それはどのようなことか。そのことを説明した次の一文の空欄に入る適当な語句を、指定された字数で本文中から抜き出しなさい。

【イスラエルが、(三十五字以内)したこと。】

Ⅱ なぜイスラエルは「国連決議に反した行動」をとっても国家として存続することができているのか、筆者が考える理由を百字以内で答えなさい。

(三) アンネ一家が隠れ家生活を強いられたのは、ドイツとオランダで何があったからか、本文中から八字で抜き出しなさい。

(四) ヒットラーがドイツで権力をにぎることができたのはなぜか、その理由を説明したものとしてもっとも適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア イエスを殺害したユダヤ人の子孫は報復を受けて当然だ、というヒットラーの考えが、民衆の支持を得たから。

イ ヒットラーは、生活が苦しい原因はユダヤ人の陰謀のせいだと訴え、彼らを敵とみなすことで支持を広げたから。

ウ ヒットラーが、卑しい金融業に就いて金持ちになったユダヤ人に賠償金を払わせたことで、ドイツ人は助けられたから。

エ ヒットラーは、ドイツ経済を悪化させたユダヤ人とは違って、アリア人という優れた民族出身だったから。

(五) 傍線部②「それによって苦しむ子どもたち」とは誰のことか、その説明としてもっとも適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア アラブ諸国からの敵意に苦しむ子どもたちのこと
- イ イスラエルに占領されたパレスチナ地域の子どもたちのこと
- ウ イスラエル建国に反対するユダヤ人の子どもたちのこと
- エ 壁で包囲されているパレスチナの外に住む子どもたちのこと

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。問題に字数制限のあるものは、すべて句読点等も一字とする。

二つのとき、母に死なれた弥太郎が、新しい母を迎えたのは、八つときだった。新しい母は几帳面な性格で働き者だったが、弥太郎にとってやさしい母親ではなかった。弥太郎はよく叱られ、時に殴られた。二年後に、弟が生まれると、義母のさつは少し変わったようだった。弥太郎に対する物言いから、以前はあった遠慮がきっぱりと失せ、刺すような言葉で罵った。反抗すると(注1)折檻がきびしくなった。さつは、いつのまにか家の中心にどっしりと坐っていた。またそれだけの働きがある女だった。

そういう義母に、弥太郎ははじめおびえるだけだった。生母を失った子を不憫がる祖母に、甘えaホウダイに甘えて育った弥太郎にとって、新しい母は突然にあらわれた加害者にほかならなかったのである。

義母は、弥太郎がこれまでやったこともなかった仕事を無造作に言いつけ、しぶがったり辛がったりすれば激しく叱責した。怠けたり、損じたりすることを許さなかった。弥太郎には、日向からいきなり寒い場所にほうり出されたような驚きと恐れがあった。

弥太郎は、義母の顔色を読むのがうまくなった。機嫌をとったり、叱られる直前に不意におどけたりした。それでも叱責から逃げきれないときは、居直ってふてくされることも覚えた。そういうとき弥太郎は、叱られても叩かれても(＊)でも動かない構えを示した。誰に言われたのでもない、(注2)生得の血にうながされてそうするのだったが、そうしていると、弥太郎は自分の心が少しずつねじ曲がって行くのを感じるのだった。

弥五兵衛が、弥太郎にむかって江戸に行くかと言ったのは、去年の秋のことである。そのとき弥太郎は、生死にかかわるほどの熱病を患い、漸く治って床に起き上がったばかりだった。

父の言葉を聞いたとき、弥太郎はそれが一番いいかも知れない、と思っていた。住み慣れた家を出て、知る人もいない他国で暮らすということには、言いようのない不安があったが、一方父の言葉が、行き場なく閉ざされていた心にbイチジヨウの光をあてた気もしたのであった。絶え間ない弥太郎とさつの衝突は、家の中の空気を救いようもなく暗くしていた。それでも祖母のかながいる間は、家の中がそれなりに釣合いがとれていたのだが、かなはcアツさが衰えはじめた八月に死んでいた。

義母のさつと弟の(注3)仙六が一組で、弥太郎と祖母が一組になっていた。そして父親の弥五兵衛は、どちらにつきようもなく孤立していたのだが、かなが死ぬとその釣合いは失われて、弥五兵衛はどちらにつくか決めねばならなくなったのだった。父親の提案は、①きりもな

い家の中の不和にけりをつけようとするものだったが、彼がどちら側についたかを示してもいた。

弥太郎は、江戸に行くと言った。父親が向こう側についたことは淋しい気がしたが、それが当然だとも思った。十五の弥太郎を外に出すことは出来るが、さつをどこにやることも出来るわけがなかった。

そして父親と話している間に、弥太郎は江戸に行くのも悪いことではない、と思いはじめていたのである。父親の口を洩れる江戸という町の名には、②不安と同時に弥太郎の心を躍らせるものがあつた。噂に聞いただけだつたその町が、不意に身近なものになつた驚きと喜びがあつた。むろん弥太郎はその気持ちを抑した。それは父親に言うべきことではなかつた。

弥太郎が承諾したあとで、父親はかえつて迷つたようだつた。人に相談し、家の中でも思い悩むふうに見え、めずらしく不機嫌な顔を家の中に見せたが、弥太郎の決心は変わらなかつた。江戸に行くことが、自分にとつても家の者にとつても一番いい方法だと思ひ、そう思うと、家の中の重苦しい空気もだんだん気にならなくなるようだつた。

——③義母だつて、そんなに性悪な女というわけじゃない。

そう思つたのは、今朝のことである。朝、赤渋村の男がやってくるのを待つて、弥太郎は家を出た。夜は明けたばかりで、村を貫く北国街道の往来には人影がなかつた。道わきの家々の軒下には、まだ雪が消え残つていて、明け方の光に青白く見えた。

さつは仙六を背負つて、村外れまで送つてきた。さつは寝不足らしく、腫れぼつたい顔をしていた。長い旅にそなえて、弥太郎は昨夜早く床についたが、さつは旅支度をとのえるために、遅くまで起きていたようだつた。背中の仙六はまだ眠つていた。

「それでは、気をつけてな」

立ちどまると、さつはそう言つた。弥太郎は、うんと言つたが、そのときは冷淡な気持ちになつていたのである。さつはぎこちない微笑をうかべて、弥太郎の旅支度を上から下まで見眺めたが、不意にさつと顔をそむけると手で顔を覆つた。

しばらく歩いてから、弥太郎は後ろを振り返つた。仙六を背負つたさつが、まだ立つて見送つてるのが見えた。

義母だつて、そう悪い人間というわけではないのだ、と思つたのはそのときだつた。さつは骨身を惜しまない働き者で、じつとしていることが嫌いな性分だつた。外の仕事でも、家の中のこともきつちりと手順を決め、そのとおりに仕事に片づけば機嫌がよかつた。

だが弥太郎は、手順どおりに物事を運ぶということがもつとも苦手だつたのである。小さいころ二ツの掃除をしたり、外に使いに行つたりしたときでも、途中で虫でも花でも、気持ちをひきつけるものがあると、言いつけられた仕事を忘れて、いつまでもそれを眺めた。鋏を持

って田畑を手伝うようになってもその性分は改まらなかった。街道を駕籠かごが通ったり、多人数の武家が通ったりすると、鍬くわの手を休めてeスすガがタたが見えなくなるまで見送った。

弥太郎は、そうしたぼんやりしたひと時に、いろいろな考えにふけるのが好きだったのだが、万ばん事じきちんとしたことが好きなさつは、そういう弥太郎にいつも心を苛いら立てたに違ちがいなかった。さつから見れば、弥太郎はやることは愚ぐ図ずなくせに、意固いこ地で可愛かわいげのない子供だったの
だろう。

——④性分の違いだ。

と弥太郎は思った。

(藤沢周平『一茶』より 一部改めたところがある)

(注1) 折檻たいげん：体罰を加えてきびしく叱ること。

(注2) 生得なまじゆ：生まれつき。

(注3) 仙六せんりく：弥五兵衛とさつとの間に生まれた子供。

(一) 波線部 a、e のカタカナを漢字に直しなさい。

a ホウダイ b イチジョウ c アツ(さ)
d ニワ e スガタ

(二) 二重傍線部「(*)」でも動かない」は「かたくなに主張を変えない」という意味の慣用表現である。(*)に入るもつとも適
当な言葉をカタカナ二字で答えなさい。

(三) 傍線部①「きりもない家の中の不和にけりをつけようとするものだったが」とあるが、父はどのようにすることで「けり」をつけよう
としたのか。十五字以内で答えなさい。

(四) 傍線部②「不安」とあるが、どのような不安なのか。その説明としてもっとも適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父親が向こう側についたさびしい気持ちから生じる言いようのない不安。

イ 家を出てしまうと、二度と受け入れてもらえないのではないかという不安。

ウ 住み慣れた家を出て、知る人もいない江戸という町で暮らすという不安。

エ 家を出ることに喜びを感じる気持ちだが、父に知られるのではないかという不安。

(五) 傍線部③「義母だって、そんなに性悪しょうわるな女というわけじゃない」とあるが、それまで弥太郎は義母のことをどのように思っていたか。本文中から十一字で抜き出さなさい。

(六) 傍線部④「性分の違いだ」とあるが、さつと弥太郎の性分の違いについて次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ さつの性分について、次の()にはいる適当な言葉を、本文中から三字で抜き出さなさい。

【じつとしてることが嫌いな、骨身を惜しまない働き者で、外の仕事でも、家の中でもきっちり手順を決め、その通りに仕事が片づけば機嫌がよいというように、万事にきちんとした()な性分】

Ⅱ 弥太郎はさつと違って、手順どおりに物事を運ぶということがとても苦手である。その具体的な内容を六十字程度で答えなさい。

【問題は次のページに続きます】

誘導員募集のお知らせ

本日も東急バスをご利用いただきましてありがとうございます。
東急バスでは、下記のとおり誘導員を募集しております。

記

1. 仕事内容 

バスターミナル等での車両誘導、乗客整理
営業所構内での燃料入れ、清掃等
2. 勤務時間および休日 

勤務交替表による
(勤務：7時間55分、休日：2週を通じ4日)
3. 勤務場所 

都内営業所、バスターミナル等
4. 給与 

月給 175,000円 (交通費支給、残業手当あり)
5. その他 

ご応募、またご不明な点につきましては、下記へご連絡ください。



以上

お問い合わせ

総務・人事部 人事課 社.



【注意】現在この人事募集は行われていません。

(東急バス公式ウェブサイトより)

③ 次の求人広告を見て後の問いに答えなさい。

(一) 「誘導員」の業務に当てはまらないものを次からあるだけ選び、記号で答えなさい。

ア 営業所内でバスを適切な位置に動かすための運転

イ バスターミナルでバスを適切な位置に停車させるための誘導

ウ バスターミナルに到着したバスへのバスターミナルでの燃料入れ

エ 1日の運行を終えて営業所に帰ってきたバスの車内清掃

(二) 「誘導員」の勤務体系について、あてはまるものを次からあるだけ選び、記号で答えなさい。

ア 土曜日・日曜日は休日となるが、祝日は休日にはならない。

イ 土曜日・日曜日・祝日は休日になるとは限らない。

ウ 実働は原則として8時間を超える。

エ 勤務は東京都内にある東武バスの営業所やバスターミナルである。

(三) 次のそれぞれについて、求人広告の内容に当てはまれば「○」、当てはまらなければ「×」と書きなさい。

ア この広告について不明点があれば東急バスの「総務・人事部 総務課」に問い合わせればよい。

イ この広告は東急バスに乗客に向けて掲示されることを前提としたものである。

ウ 東急バスは1991年に東急電鉄から分社化されて設立された会社である。

エ 今回募集される東急バスの「誘導員」には、交通費や残業手当が支給される。

【問題は以上で終わりです】

令和2年度中学入試〔前期A・E入試〕

解答（120点満点）

①（50点）

(一) 10点〔各2点〕 a 要望 b 断念 c 秘密 d 総勢 e 習慣

(二) I 6点 国連が採択した「ユダヤ人の国」の範囲を超え、パレスチナ全域を占領（32字）

II 18点 ナチスドイツによって多くのユダヤ人が犠牲になったことを世界は知っており、

その悲劇の象徴である『アンネの日記』を読んでしまうと、

アラブ諸国以外の国際社会はイスラエルに対して強い態度をとりにくくなるから。（100字）

(三) 4点 ユダヤ人への弾圧

(四) 6点 イ

(五) 6点 イ

②（50点）

(一) 10点〔各2点〕 a 放題 b 一条 c 暑(さ) d 庭 e 姿

(二) 4点 テコ

(三) 6点 弥太郎を江戸に出すこと。（12字）

(四) 6点 ウ

(五) 6点 突然にあらわれた加害者

(六) I 6点 几帳面

II 12点 気持ちをはきつけるものがあると、いつまでもそれを眺めたり、

そうしたひと時に、いろいろな考えにふけったりするのが好きな性分。（61字）

③（20点）

(一) 6点 ア・ウ

(二) 6点 イ

(三) 8点 ア×

イ○

ウ×

エ○